

第三回 平和の舞 <神楽の学校 2024>

The 3rd Kagura for Peace <the School of KAGURA 2024 in ASTER PLAZA>
-Lecture, Workshop and the Performance of Kagura-
on of Gishiki-mai(Ritual Dance):Hono-Kagura etc.in the modern times.

“鎮魂と再生”

魅力あるひろしま神楽！
神楽のあるまちづくり！

—現代によみがえる儀式舞“奉納神楽”—

[レクチャー・ワークショップと神楽公演] 司会 丸子ようこ

総監督 伴谷晃二

JMS アステールプラザ・中ホール

広島市中区加古町 4-17 TEL082-244-8000

Chief Director
Koji TOMOTANI

11/17(日) 9:30 開場
10:00 開演



10:10 レクチャー I 田邊英男 Hideo TANABE

11:10 レクチャー II 西井 亨 Tohoru NISHII

「神楽県ひろしま」

「備後地方の神楽尾道市の神楽を中心に」

10:30 神楽公演ワークショップ

比婆荒神神楽子ども神楽塾
しちざんじ
「七座神事」 (庄原市)



13:00 ① [広域十二神祇神楽 I]

國光神楽団 (広島市)
すずは
「煤掃き」



② [比婆荒神神楽]

比婆荒神神楽社 (庄原市)
「猿田彦の舞」



③ [備後神楽 I]

豊栄神楽団 (東広島市)
あくまばら
「悪魔祓い」



④ [芸予諸島神楽 I]

中庄十二神祇神楽保存会 (尾道市)
みさきぼら
「御先祓い」



⑤ [芸北神楽 I]

砂庭神楽団 (山県郡北広島町)
「長髓彦征伐」



14:45⑥ [芸予諸島神楽 II]

戸田自治会 (呉市仁方町)
「四天と提婆」



⑦ [備後神楽 II]

御調神楽保存会 (尾道市御調町)
あくまばら
「悪魔祓い」



⑧ [広域十二神祇神楽 II]

阿刀神楽団 (広島市)
せきお
「世鬼の舞」



16:45⑨ [広域十二神祇神楽 III]

伊勢神社神楽団 (廿日市市)
さんまじん
「三鬼神」



⑩ [芸北神楽 II]

津浪神楽団 (安芸太田町)
じんりん
「塵倫」



⑪ [比婆荒神神楽]

比婆荒神神楽社 (庄原市)
くにゆす
「国譲りの能」



【主催】 (一社)ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト /平和の舞<神楽の学校>実行委員会

【共催】 (公財)広島市文化財団・JMS アステールプラザ

【協力】 ひろしま国際平和文化祭実行委員会 (応援イベント) / (医)八千代会・八千代病院 メリハハウスグループ

【助成】 公益財団法人朝日新聞文化財団 公益財団法人エネルギア文化・スポーツ財団 公益財団法人ひろしま文化振興財団

公益社団法人企業メセナ協議会・助成認定制度

【協賛】 (申請中) (医)エム・エム会 オタフクソース(株) 北広島病院 (株)シライ・(株)Thrive 生活協同組合ひろしま タナベ種苗(株)広島市信用金庫

(医)みやうち/(公財)みやうち芸術文化振興財団 (医)八千代会 (株)やまびこ *6/26 現在

【後援】 (申請中) 広島県 広島県教育委員会 広島市 広島市教育委員会 尾道市 同市教育委員会 呉市 同市教育委員会 庄原市 同市教育委員会

廿日市市 同市教育委員会 東広島市 同市教育委員会 安芸太田町 同町教育委員会 北広島町 同町教育委員会 広島商工会議所 広島経済同友会

広島県商工会連合会 (一社)広島県観光連盟 (HIT) (公財)広島平和文化センター (公財)ひろしま文化振興財団 (公財)呉市文化振興財団 東城町商工会

(公財)廿日市市芸術文化振興事業団 廿日市商工会議所 (一社)はつかいち観光協会 中国新聞社 朝日新聞広島総局 NHK 広島放送局 中国放送

広島テレビ 広島ホームテレビ テレビ新広島 広島エフエム放送 FM ちゅーピー76.6MHz FM はつかいち76.1MHz 広島民俗学会 広島市文化協会

【入場料】 (全席自由) 一般 3,000 円 (当日 3,500 円) 学生 (小中高) 2,000 円 (当日 2,500 円) ベア 5,000 円 (当日 5,500 円) チケットぴあ (Pコード: 528-323)

アステールプラザ情報交換ラウンジ 広島市各区民文化センター エディオン広島本店 ひろしま夢プラザ ウッドワンさくらびあ事務局

【お問い合わせ】 (一社)ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト事務局 TEL0828-38-2264 (9:00-17:00) 携帯 090-1359-0215 <http://hiroshimamusic.sblo.jp>

*障がい者の席(要介助者)席はお問い合わせください。*未就学児の方は保護者同伴でご入場ください。大人1名につき子ども1人無料、2人目からは学生券が(小中高)が必要です。

チケット発売日 8/17

第三回特別公演 平和の舞<神楽の学校 2024 in アステールプラザ> —現代によみがえる儀式舞”奉納神楽—[レクチャーとワークショップと神楽公演] The 3rd Kagura for Peace <the School of KAGURA2024 in ASTER PLAZA> -Lecture, Workshop and the Performance of Kagura- on of Gishiki-mai(Ritual Dance):Hono-Kagura etc.in the modern times.



作曲家/エリザベト音楽大学名誉教授/総監督 伴谷 晃二:
(社)ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト代表理事
平和の舞<神楽の学校>実行委員会会長
神楽は本来「地域文化」の共同体から醸成されてきたものであり、「海難・海運」や「農耕儀礼と奉納のみならず、亡くなられた多くの方への「鎮魂と再生と復興」を原意とします。本プロジェクトはく多文化社会と共生>の理念のもとに「平和の舞」として、<ヒロシマからのメッセージ>負の遺産 核兵器廃絶・平和への希求>を世界に発信し祈念。

今回は広島県内の奉納神楽の中でも「鬼」をテーマとし、[芸芸十二神祇]や[芸北神楽]の<荒平>や<塵倫>、比婆荒神神楽の<猿田彦>[芸予諸島神楽]の<提婆>や、[備後神楽]の<悪魔祓い>等、現代生きる私たちに「笑いや喜びや戒め」を伝え、神様につかえる様々な「鬼」の様相をご紹介します。神様に仕え様々に変容を続けてきた「鬼」に焦点をあて、神楽文化の歴史と神楽の原点を模索し辿ります。

[ワークショップ] 比婆荒神楽 神楽子ども神楽塾 塾長 横山 英史



「比婆荒神楽子ども神楽塾」は平成13年8月「比婆荒神楽東城後援会」とともに設立されました。現在塾生は、13名で、月2回比婆荒神楽社の社中の方から指導を受けています。舞の型だけを学ぶだけでなく、「比婆荒神楽」の歴史を通して先人の思いにふれ、地域の方々との交流を通して子どもたちはたくましく育っています。比婆荒神楽では「七座神事」の中のひとつで、七難三災、悪魔降伏、疾病前除、諸難退散の神

で、悪魔払いとともに氏子の繁栄を願い舞われます。

[広域十二神祇神楽 I] 國光神楽団 団長 柿出 浩輔



國光神楽団は安佐南区沼田町伴地区を拠点として2022年1月に旗揚げし、郷土芸能「十二神祇神楽」の保存・伝承・発展に取り組んでいます。十二神祇神楽は広島市周辺に江戸時代以前より伝わり、娯楽として時代に応じた変化を重ねながら、各集落で継承されてきました。國光神楽団では伴地区の十二神祇神楽を後世に継ぐべく、若衆を中心に積極的な稽古に励み、絶頂演目の復活などにも取り組んでいます。十二神祇神楽を愛する舞子衆が、千代万代の神人和楽を願いつつ、天神地祇の舞い遊びを天蓋の下に表現しています。
「煤掃き」は舞殿に神を迎えるため、天孫降臨神話において先導役を務めた猿田彦命が、舞殿を力強く掃き清める神楽である。

[芸予諸島神楽 I] 中庄十二神祇神楽保存会 会長 松浦 新吾郎



中庄八幡神社十二神祇神楽は備中、備後の神楽の系統をひくといわれ、起源は不明であるが天明2年に再興、安政7年再著された上中下の3巻で構成された台本が存在する。上では罪や汚れを祓い清め清々しい舞をつくるための舞、中下は古事記・日本書紀からの神話的な演目が記されている。また、安政2年の着物鑑が残存する。少なくとも江戸後期には現在の形が出来上がっていたと考えられ、昭和57年に広島県無形民俗文化財に指定された。御先祖(御神殿入)は神前に進み出て、東西南北中央を祓い清め、その場を神祭りの場とする。だいは面をつけ、左手に笹葉又は桐葉、右手に大刀をもって舞う。神楽を奉納する際に最初に舞う舞である。

[芸予諸島神楽 II] 戸田自治会 成年部 部長 竹本 剛



戸田神楽は、「芸予諸島の神楽」に属しています。約200年前に愛媛県大三島大山祇神社から伝わったとされています。演目は、優雅に舞って神を勧請する「儀式舞」と、鏝を付けた舞手が剣・弓などを採って激しく舞う「形式舞」の二つで構成されており、わずかに二枚の筵(むしろ)の上で舞うのが特徴です。現在の部員は、小学校5年生から60歳位と幅広い層で構成されており、皆で協力して戸田神楽の歴史を守ってきています。四天は、仏教の五大明王の中の不動明王を囲む、四明王を表しています。最初に四天が御幣で舞った後に堤婆が現れて四天に問答を挑みますが、堤婆は、問答に破れて去ります。その後四天は、刀・扇で勇壮に舞い納めます。

[広域十二神祇神楽 II] 阿刀神楽団 団長 浜直 直樹



阿刀神楽は、850年頃から阿刀明神社に伝わる十二神祇神楽です。その後、1800年頃、宇高宗助という武芸者が難波一甫流という柔術の型をこの神楽に取り入れて、舞い継がれて来ているのが特徴であり、非常に洗練された舞です。神事としてばかりでなく、民間芸能として価値の高いものであることが認められ、1965年に広島県無形民俗文化財に指定され、その後、文化庁より記念作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財にも指定されています。

[芸北神楽 II] 津浪神楽団 団長 末田 健治



昭和6年河内神社氏子により「津浪神楽団」として設立。石見神楽の流れを汲む山舞、六調子、旧舞を主体に伝承に努めています。活動は、地元をはじめ広島市等各地の秋祭りの神楽奉納、イベント出演や神楽競演(共演)大会等の出演です。神楽は皆様に支えられ伝承してきた伝統芸能です。今後も大会活動に努めると共に神楽ファンの皆様へ感動していただける舞を目指し団員一同精進してまいります。よろしくご声援ください。
翼を持ち、天空を自在に駆けめぐる塵倫という鬼が異国から攻めてきた時、仲哀天皇(帯中津彦命)が神変不思議の弓矢をもってこの大悪鬼を討ち取ったという物語です。二人の息のあった舞や虚空をさまよう塵倫の動作など見所の多い演目でもあります。



[レクチャー I] 「神楽ひろしま」 元広島県立歴史民俗資料館長 田邊 英男

「神楽ひろしま」という言葉は、平成26年度に広島県立歴史民俗資料館が、特別企画展「ぐるっとひろしま神楽めぐり」で使用したキャッチコピーです。広島県には多彩な神楽が継承されており、神楽研究の第一人者であった三村泰臣氏(故人、広島工業大学教授)は、県内の神楽を五つの類型に大別されました。石見神楽を取り入れた芸北神楽。周防地域との交流が深い芸芸十二神祇神楽。備中神楽の影響を受けつつ神楽本来の儀式を厳格に守り伝える比婆荒神楽と中世以来の伝統を受け継ぐ備後神楽。そして多様な神楽が分布する芸予諸島の神楽。さらに、出雲神楽の影響を受ける神楽も伝わります。今回は、神楽を奉納する目的・手順、あるいは各地の神楽に登場する「鬼」についてお話ししながら、県内の多彩な神楽を概観します。

[レクチャー II] 「備後地方の神楽～尾道市の神楽を中心に」



尾道市企画財政部文化振興課係長/学芸員 西井 亨
県内の神楽については、藤井昭氏、三村泰臣氏らによって調査され、分類が行われています。三村氏によれば、芸北神楽、比婆荒神楽、安芸十二神祇神楽、備後神楽、芸予諸島の神楽の5つに分類されます。備後地方では、素朴で、味わいのある神楽が舞われ、地域に溶け込んだ民俗芸能として、親しまれています。尾道市には、現在、16の神楽団があり、「備後神楽」と「芸予諸島の神楽」などが、地域ごとに行われています。市内の丘陵地域や瀬戸内沿岸部、島上郡など、その地域ごとの多様さは、神楽の魅力そのものでもあります。その歴史は、江戸時代に遡るものも多く、伝統ある民俗芸能として、地域の誇りとして脈々と受け継がれています。

[備後神楽 I] 豊栄神楽団 団長 窪田 尊志



昭和42年(1967年)「豊栄神楽保存会」として発足し、主に備後地方で古くより舞われてきた備後神楽を保存・伝承している団体です。我々が舞っている備後神楽は「豊栄神楽」と呼ばれ広島県無形民俗文化財に指定されています。神事式三曲・能舞九曲・五行祭(王子神楽)のあわせて十三曲が指定されており特に五行祭が重要視されています。今回演じる「悪魔祓い」は神代の時代、天孫降臨の時に猿田彦命が先祓いをしたことに由来します。氏子にかかる災難や神楽を舞う神殿に悪魔が入らないよう願いの意味がこめられた舞です。

[芸北神楽 I] 砂庭神楽団 団長 丸岡 忠司



「砂庭神楽」は、江戸後期に壬生神社の井上宮司によって「壬生能神楽連中」として結成され、中世からの神楽に石見神楽を取り入れた厳かで優雅な舞いが特徴です。井上家は中世神楽古文書「荒平舞詞」「五形祭文」などを所蔵し、石見神楽を招聘して郡東部に広め、演目の創作も行いました。砂庭神楽団は独自の舞いを守ってきた先人に感謝しつつ、舞いの練磨と後世への継承に努めています。
「長龍彦征伐」は、明治16年に壬生神社の井上宮司により神武東征神話をもとに創作されました。特徴は物語性のある構成で登場人物、場面、詞章が多く、古代風の衣装で厳かに舞う古雅な舞いで、北広島町無形民俗文化財に指定されています。

[備後神楽 II] 御調神楽保存会 会長 住貞 義量 団長 柳川 順三



御調神楽は、昭和46年12月に広島県無形民俗文化財に指定されています。備後神楽の一つで、手草舞、悪魔払、折敷舞、三胡子舞の4つの舞が指定演目です。地元、神社を始め、祭りで披露しています。指定以外の演目も行っています。今回、演ずる「悪魔払」は、天孫降臨の神話によって猿田彦の命が刀をふるって四方を切り払う舞ですが、御調神楽の悪魔払いは、手力男の命が天の岩戸を開いて天照大神の降臨を願う四方に、はびこる悪魔を払った神話にのっとり急旋回をする舞が、この演目の特徴です。

[広域十二神祇神楽 III] 伊勢神社神楽団 団長 竹本 政博



伊勢神社神楽団は、廿日市市原地区に伝わる十二神祇神楽を、原神楽の名称で伝承しています。毎年、氏神である伊勢神社へ神楽舞を奉納しています。文政2年(1819年)に記された佐伯郡原村の「書出帳」に記されていることから、古い歴史を持つ神楽だと言えます。原神楽の大きな特長は、「死舞」と呼ばれる貴重な舞「天臺將軍」を継承し、また、十二神祇神楽の型を忠実に伝承していることが評価され、平成24年に県無形民俗文化財に指定されました。「三鬼神」は、他の神楽団では「きづき」という演目で舞われることもあり、「きづき」なる男神が鬼の一家を、次々と弓矢で平らげる様子を舞うという神楽です。

[比婆荒神楽] 比婆荒神楽社 社長 横山 邦和



比婆荒神楽は、庄原市東城町・西城町を中心に行われる「本山三宝荒神」へ奉納する祖霊信仰の神楽です。この地方には中世の名残「名」の形が今でも現存しており、その信仰は非常に厳しく、神楽は名内の人々がもともと盛大に厳粛に行っていました。この神楽は鎮魂の要素を残しているのが特徴といわれ、託宣の神事を伝えることは全国的にも貴重な存在とされ、昭和54年に国指定重要無形民俗文化財に指定されています。比婆荒神楽では建御名方命を「鬼」として演じます。日本には様々な形の鬼が存在しています。この「多様性」にとんだ鬼の存在こそ日本の特徴。また、日本の鬼は必ず退治されますが、必ずその土地で祀られ、また建御名方命も「諏訪大社」にも祀られています。